



# 補習校だより

平成26年度 第15号

平成26年8月16日発行

マイアミ補習校

校長 永井 晋

事務所 305-406-0050

土曜日 917-521-5768

ホームページ [miamihoshuko.org](http://miamihoshuko.org)

E-mail [hoshuko@bellsouth.net](mailto:hoshuko@bellsouth.net)

## 道徳

校長 永井 晋

先週、朝子どもたちの顔を見た瞬間に「ああ、いい顔をしている」と感じました。きっと夏休みならではの良い体験をしたのでしょう。「また、補習校が始まってしまう」という負の感じはなく、「また、しっかり補習校で勉強しよう」や「補習校の友達と会えて嬉しい」といった正の感じが顔からうかがえました。

さて、先週も日本の教育改革について掲載しましたが、今週も同様のことを書きたいと思います。いじめや自殺、少年犯罪、学力低下などをうけ、日本の教育は大きく動こうとしています。今回書くのは「道徳」の教科化についてです。現在日本の小中学校では、「教科」「道徳」「特別活動（学級活動や生徒会など）」「総合的な学習の時間」の4領域を教えることになっています。なぜ「道徳」だけは「教科」ではないかという、「教科」には教科書があり、評価をすることになっています。しかし、「道徳」には教科書もなく、多くの学校が市販の副読本を使うか教員の自作の資料を使って授業を進めていますし、（通知表等の）評価もされません。ところがその「道徳」を「教科」に格上げしようというのです。格上げとは報道の言葉を借りています。本来どちらかが上の位置づけではありません。しかし、多くの学校で教科ほど力を入れているのも事実です。いじめやモラルの低下が問題となっている日本で道徳が教科化されるのは良いことかもしれません。しかし、人の心の中を評価するのは難しく、しかも地域性が大きい日本でどの学校でも使える教材（教科書）を作れるのでしょうか。問題は山積みです。

補習校では、「道徳」を授業で行うことは出来ないと思います。しかし、「道徳」は教育活動全般で行うと決まっていますので、常に道徳を意識して授業や行事を行うことは可能です。本校でも「道徳」の考え方を取り入れて教育活動に取り組んでいきたいと考えています。

